



若者と自治会の関係性

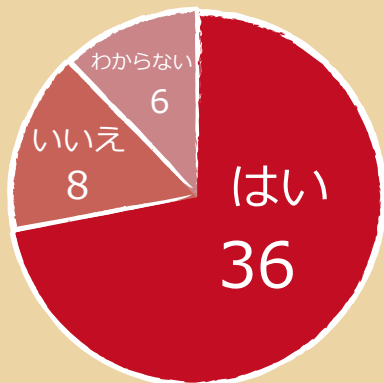
自治会って何をやっているの？若い人って関わってるの？今から始める自治会活動

東日本大震災において、自治会をはじめとする地域コミュニティが強く形成されていた地域ほど被害が少なく、復興も早く進んでいると言われています。また一昔前では各家庭での個別の問題とされてきた子育てやひきこもりなども、近年では地域全体で支えていく取り組みが全国のいたるところで見られます。自治会は煩わしいといった意見もありますが、その存在の重要性は、未来を見据えれば見据える程大きいのではないのでしょうか。ところがどっこい、そんな未来を担う世代の自治会への参加がとてども少ないらしい！確かに、記者である私の家も回覧版を回すくらいで他は何もしていない…。子どもたちや自分の未来を考え、今から動いても遅くはないはず…！

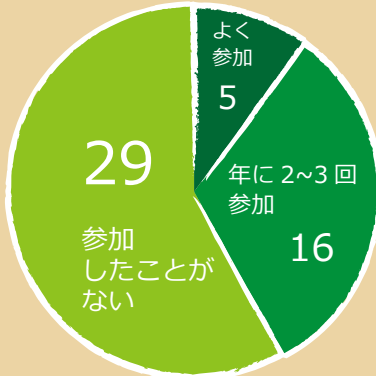
というわけで、緊急調査！自治会って何？何をしているの？若い人は自治会アレルギーがあるって本当？自治会が持つ地域を支える力を少し知ってみて、可能な範囲で参加をしてみるというのはどうだろうか。

【緊急調査】20代～40代の男女50人に自治会に対するアンケートを実施しました

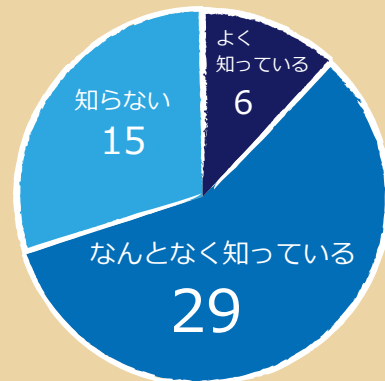
自治会費を払って自治会に入っていますか？
(世帯に入っているものを含む)



自治会の活動に参加していますか？
また参加したことがありますか？



自治会の活動内容について知っていますか？



なんとまあ、自治会に加入しているのに半分以上が自治会活動に参加をしたことがないという結果に…！

理由としては、「仕事で忙しい」「年配者が集まっていて比較的若い人には近寄りたがたい雰囲気がある」「色々と面倒くさそう」という意見がありました。

一方で、自治会に対するイメージについては「町をよりよくするための組織」「住民の方に安心して地域で暮らして頂く役割を担っている」「地元のおまわりさんのような存在」と好意的なものが多く、参加はしていない（できない）けれど必要性を感じているといった傾向がみられます。

若者自治会長に聞く！



内田 裕之さん (34) (亀山市みずきが丘自治会 自治会長)

縁があって自治会長になりました。きっかけは「人」ですね。新興住宅地であるみずきが丘でまったく知らない人とも仲間をつくり活動していきたいという思いがありました。自治会長になって4年目になりますが、同じ思いをもった仲間が増えて、地域のための活動ができるようになり楽しいです。責任のある役職ですが、良い苦勞をしますね。他の自治会の年配の方と会う機会もあり勉強になります。僕の考えですけど、年をとってから地域に貢献することは誰でもできるんじゃないかなと思います。地域の未来について考えなくても生活はできますよね。ただ若い

うちから繋がりをつくってその仲間と地域の未来を考えていくことができれば楽しくなってくると思います。関わることは大変ですけど、関わってからじゃないと分からないことがいっぱいあります。たまたまこの自治会が若いというものもあるかもしれないけど、他の地域でも青壮年部が盛り上げようとしている地域もありますよね。地域と関わったことがない人は関わってみて、地域との関わり方を考えたらいんじゃないかなと思います。最初の一步を踏みこむのは難しいと思いますが、一度自治会活動に参加してほしいなと思います。

自治会って何をしているの？ ～自治会の活動の「なほほ！」を探せ！～

なほほ！ 災害時に備えた防災訓練

いつやってくるかわからない自然災害に備えて、防災訓練を実施。災害発生直後の救出救護、初期消火、避難誘導や避難所の開設、炊き出しの訓練まで行っている。日頃の訓練で住民同士のつながりも深まっていくそうなので、チャンスがあればぜひ参加したい！



なほほ！ 防犯や交通安全のための活動

まちの安全のため青色回転パトロール車による巡回や小学校下校時の見守り活動を行っている。またカーブミラーやガードレールなどの交通安全施設の点検や危険箇所のチェック、道路の見通しを良くするための草刈りなどを行い、まちの改善につとめている！



なほほ！ 地域の美化活動や催事

道路、海、川の清掃活動や空き地の草刈り、缶拾いなど環境美化活動を行っている。またゴミ集積所のパトロール・清掃、不法投棄監視のパトロールを実施。地域のお祭りなどの催事も開催。きれいで住みやすいまちの裏には自治会の活動があった！



自治会担当の行政の方から一言

自治会は、自分たちの住むまちをより良くしていこう！とその地域に住む人々が協力しあいながら地域の課題に取り組み、住みよいまちづくりのため活動を行う団体です。

東日本大震災を機に地域コミュニティの重要性が見直されています。震災時には、地域連携がとれている地域は復興が早かったそうです。近い将来危惧されている南海トラフ大地震が発生すれば近隣同士が助け合うということが重要になることは言うまでもありません。災害時、行政だけの力（公助）では限界があります。近隣同士、日頃から顔の見える関係を築き備えること（共助）が大切です。そのためにも自治会の活動に参加し、地域とつながりをつくっておくことは自分たちの生活の安心・安全につながるのではないのでしょうか。

今まで、なんとなくしか知らなかった自治会だけど、自治会活動に参加することは、自分たちの住んでいる地域やまちを豊かにする方法の1つなんだなあと感じました。災害などの非常時のために、日頃から顔が見える関係性をつくることは大事ですね。それだけでなく、日常的なまちの美化や交通安全活動、地域全体での子育てやお祭りなどの催事も、自治会に入ること、今よりもっと良くなる可能性がありますね。自治会への入会は市町行政の担当窓口でできるとのことなので、気になった方はぜひ！



若者自治会長に聞く！

織田 拓さん (30) (奥立川自治会 自治会長)



前自治会長の任期が終わり、次の自治会長になってもらえる人が見つからなかったようなので、自治会長の役を引き受けました。自治会に加わるようになったことで、他人の強みを探すようになりました。村の中のネットワークが急激に広がり、誰が何処で何を仕事にしているのかよく分かるようになりました。それに伴い、ある事案が持ち上がった時や、何か協力が必要になった時、わからない事を教えてもらいたい時など、その事例ごとに誰に話を持っていけばベストなのかがわかり、行事の遂行や問題解決のスピードと効率が非常に上がりました。その人その人の強みや得意分野、職業などを把握することで、自分一人では不可能な事でも可能にできる人脈を構築するために、自治会外でも常に自分の周りにいる人の強みや得意な事を意識して探すようになりました。正直、自治会長という仕事は楽ではありません。しかし、もし何か成し遂げたい目標があるのなら自治会というネットワークは非常に強い味方になってくれます。この仕事をこなす事で非常に大きな人脈を作る事ができ、自分が持つ可能性の幅がとても広がります。自治会に入る前は起業しようかどうか、かなり迷っていましたが、今はその人脈のお陰で完全に決断する事ができました。